

令和2年度酪農教育ファーム活動報告

令和3年3月30日
一般社団法人中央酪農会議
酪農教育ファーム推進委員会

I. 活動計画における令和2年度事業の考え方

1. 令和2年3月30日に決定された活動計画における考え方（概要）

令和2年度の酪農・国産牛乳乳製品理解促進広報事業の考え方を踏まえ、令和2年度の酪農教育ファーム活動は、「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」を目的に、認証を受けたファシリテーターが学校や教育現場等と連携しながら、酪農家の生き方や酪農及び生乳の特性等とともに、日本酪農と酪農教育ファーム活動そのものが既に持つ「持続可能な社会の実現」にも繋がる価値と役割について消費者等に直接伝える教育活動を推進することで、「酪農家を勇気づけ」、「産業としての酪農の価値向上を図り」、「仲間（新規就農者・後継者、理解者・応援団）を増やす」ことに繋げる。

現場での取り組みにおいては、飼養衛生管理基準の順守及び感染症防疫マニュアルに則った取り組みを徹底し、各会議や研修会等の場においては、引き続き日本酪農を巡る情勢や、指定団体の重要性、中央酪農会議の取組内容等について説明する時間を設ける。

なお、新型コロナウイルス感染症発生の状況を踏まえ、現場においては、感染拡大の防止に向けた政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」等を踏まえて対応するものとする。

2. 新型コロナウイルス拡大防止を踏まえた対応

1月に中国で発生した新型コロナウイルスは、世界各国に感染拡大し、わが国においても社会全体に深刻な影響が及んでいる。

全都道府県において緊急事態宣言の解除はなされたが、ワクチンや治療薬はまだ開発されていない中、令和2年6月30日に開催された本会議の第369回理事会にて、令和2年度の研修会等のうち①上半期の開催、②参集範囲が全国で不特定多数の者、③実技などが必要でWEBでの開催になじまないものは「休止」（ただしWEBでの開催で一定の成果が期待できる活動については、試行的実施を含めWEB開催に移行）すること等が決定された。これを踏まえ、令和2年度酪農教育ファーム活動の事業計画を、以下の通り変更する。

なお、現場での取り組みにおいては、本会議の作成した「新型コロナウイルスを想定した消費者交流活動に係る感染予防ガイドライン」を目安に、牧場毎に、牧場の状況に即した具体的な感染予防対策を実施していくよう周知徹底することとする。

Ⅱ. 令和2年度活動報告

1. 推進委員会等

(1) 全国の酪農教育ファーム推進委員会の開催

■第1回：令和2年7月9日（木）10:00～12:00（WEB会議）

<協議事項>

○委員長及び副委員長の互選

→委員長：國分重隆委員、副委員長：清水ほづみ委員に決定。

○令和2年度酪農教育ファーム活動計画の変更

○酪農教育ファーム推進委員会設置要領の改正

→「顧問」の設置を追加。（委員会後、羽豆成二前委員長に顧問を委嘱）



■第2回：令和3年3月30日（火）13:30～15:30（WEB会議）

<協議事項>

○令和2年度酪農教育ファーム活動報告

○令和3年度酪農教育ファーム活動計画

(2) 指定団体担当者会議の開催

■令和3年3月15日（月）13:30～15:00（WEB会議）

<協議事項>

○令和2年度酪農教育ファーム活動の進捗状況と今後の予定

○令和3年度酪農教育ファーム活動計画

(3) 地域推進委員会への支援・出席

■現時点までに、北海道（WEB）、東北（書面）、関東（書面）、近畿（専門委員会・WEB）、四国（書面）が地域推進委員会を開催。近畿のみ本会議から出席。

2. 認証制度の適切な運用

(1) 新規認証牧場・ファシリテーターの募集

- 指定生乳生産者団体（地域推進委員会）を通じて募集。（11月末締切）
- 指定団体による牧場現地審査の実施

(2) 認証審査委員会の開催

- 令和2年12月21日（月）13:30～15:30（WEB会議）

○委員名簿（敬称略）

氏名	所属・役職等
西田 敦子	全国退職女性校長会 顧問
安部 強	東北生乳販売農業協同組合連合会 代表理事専務
吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウス「ちちぶ路」（埼玉県）
天野 はな	千葉県農業共済組合 西部家畜診療所 技術主査
寺田 繁	一般社団法人中央酪農会議 事務局長

○指定団体等別申請者数

管轄	牧場認証	ファシリテーター認証
北海道	2	5
東北	0	5
関東	5	6
北陸	0	1
東海	0	2
近畿	0	8
中国	0	0
四国	1	0
九州	2	1
中酪	0	1
計	10	29

○ファシリテーター認証申請者の属性

①牧場で専門的に酪農に従事する者	18
酪農家（経営者）	3
酪農家（経営者の家族）	5
酪農家（従業員・社員）	3
団体職員	3
観光牧場	2
公共育成牧場	1
乳牛を飼養する研究機関	1
②牧場で専門的に酪農に従事しない者	11
教育関係者	2
乳牛を飼養する教育的施設	2
乳牛を飼養する研究機関	1
学生	6
計	29

<審査結果>

- 10 牧場・29 人が「仮認証」（一部「認証」）を取得（留意事項への対応及び認証研修会の受講により「認証」）
- なお、北海道の2 牧場については、新型コロナの影響で現地審査を未実施。実施した時点で「認証」とする。



(3) 認証制度に係る研修会の開催

①認証研修会

<開催概要>

- ねらい：酪農教育ファーム活動の目的と意義、酪農教育ファーム認証制度の仕組み、酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策等を学ぶとともに、酪農教育ファームファシリテーターの役割を理解する。
- 開催日時
 - 【1回目】令和3年2月18日（木）10：30～16：00
 - 【2回目】令和3年3月11日（木）10：30～16：00
- 手法：WEB（ZOOMを使用）
- 対象者：新たに酪農教育ファームファシリテーター認証を申請する者（「仮認証」を取得している者）
- プログラム（敬称略）

時間	分	内容
10:30	5	開会・事務連絡
10:35	15	主催者挨拶、最近の酪農を巡る情勢説明
10:50	20	アイスブレイク
11:10	60	講演「酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策の基準」 【1回目】酪農学園大学獣医学群 講師 村田亮 【2回目】千葉県農業共済組合 西部家畜診療所 技術主査 天野はな
12:10	35	休憩
12:45	180	ワークショップ「酪農教育ファームファシリテーターの役割」

		いぶり自然学校 代表理事 上田融
15:45	10	これから酪農教育ファーム活動を実施していくにあたって
15:55	5	事務連絡
16:00		閉会



<開催結果>

○受講者数：合計 30 名（1 回目：16 名、2 回目：14 名）

○アンケート結果

【5 段階評価の平均】

質問項目	1 回目	2 回目
研修会は満足できたか	4.8	4.8
認証の仕組みについて理解できたか	5.0	4.8
酪農を巡る情勢について理解できたか	4.6	4.5
アイブレイクで緊張がほぐれ、主体的に参加する気持ちが高まったか	4.6	4.1
安全・衛生の基準は理解できたか	4.9	4.6
酪農教育ファームファシリテーターの役割が理解できたか	4.9	4.7
今後もこのような WEB 研修会に参加したいか	4.9	4.6

【自由記述】（抜粋）

○改めてしっかり衛生管理をしなければと気が引き締まった。

○子供たちが例えば「酪農家を目指したい」と思えるような自発的行動を促す、引き出すという役目を担っていると理解できた。ファシリテーターの役目や意義を言語化してくださり、話し合いを行ったことで理解を深めることができた。

○全国各地の受講者の方と交流できたことがとてもよかった。

○リモートの研修会は聴講する時間が長く、退屈なイメージがあったが、対話的な講習やファシリテーターの活動を体感することができ、大変有意義な時間となった。

○コロナウイルスに負けず、今後もさらに酪農教育ファーム活動を推進していきたいと感じた。

○ハウリングで音声聞きづらかった場面があったので、複数が同室で受講する場合はイヤホンとマイクの使用を推奨して欲しい。

②スキルアップ研修会

■休止するとともに、全ファシリテーターの認証期限を 1 年延長。

★年度末の認証牧場数

	R1 年度末 (R2 当初) ①	増加 ②	減少			R2 年度末 (R3 当初) ①+②-③	前年差
			③=a+b	取消 申請 a	失効 b		
ホクレン	55	0	1	1	0	54	-1
東北	35	0	1	1	0	34	-1
関東	70	4	1	1	0	73	3
北陸	14	0	0	0	0	14	0
東海	35	0	1	1	0	34	-1
近畿	17	0	1	1	0	16	-1
中国	23	0	0	0	0	23	0
四国	5	1	0	0	0	6	1
九州	31	2	1	1	0	32	1
沖縄	0	1	0	0	0	1	1
計	285	8	6	6	0	287	2

★年度末のファシリテーター数

	R1 年度末 (R2 当初) ①	増加 ④	減少			管轄変更	R2 年度末 (R3 当初) ①+②-③	前年差
			③=a+b	取消 申請 ②	失効 ③			
ホクレン	97	7	1	1	0	1	104	7
東北	67	5	1	1	0	-1	70	3
関東	140	5	-2	-2	0		147	7
北陸	35	1	0	0	0		36	1
東海	64	2	1	1	0		65	1
近畿	52	7	1	1	0		58	6
中国	47	0	0	0	0		47	0
四国	18	0	0	0	0		18	0
九州	57	2	2	2	0		57	0
中酪	1	1	0	0	0		2	1
計	578	30	4	4	0	0	604	26

(4) 活動実態調査の実施

- 上期分調査結果は別紙①のとおり。
- 下期分調査は4月に調査依頼文書を発出予定。

(5) 認証牧場・ファシリテーターの管理

(6) 地域推進委員会による牧場現地検査・審査

①牧場現地検査（既認証牧場への3年に1回の検査）

新型コロナの影響により実施できなかった地域あり。

②牧場現地審査（新規認証取得のための審査）

前述の通り、北海道の2牧場について、新型コロナの影響で現地審査を未実施。

3. 実践者及び理解者の拡大・普及

(1) 地域推進委員会における認証取得への取り組み・PR

(2) 酪農家等関係者への普及

①業界紙（誌）への記事広告掲載

■「全酪新報」9/20号（別紙②のとおり）

○カラー15段（記事10段、広告5段）

○安全衛生対策の専門家（酪農学園大学講師・村田亮氏）による「新型コロナウイルスを想定した消費者交流活動ガイドライン」の解説、酪農家（北海道・渡辺体験牧場）の活動状況、新規認証募集広告等。

■「DAIRYMAN」10月号（別紙③のとおり）

○A4判カラー4ページ

○「新型コロナウイルスを想定した消費者交流活動ガイドライン」を踏まえた酪農家（北海道・山岸牧場）による酪農教育ファーム活動、新規認証募集広告。

②酪農家等関係者が集まる研修会・イベント等におけるPR

■新型コロナの影響で、各種研修会・イベントが中止となったことに伴い、PRはほぼ未実施。

(3) 教育関係者への普及

①実践研究集会

<開催概要>

○令和2年10月11日（日）13:00～16:00

○共催：日本酪農教育ファーム研究会

○対象：日本酪農教育ファーム研究会会員及びファシリテーター

○プログラム（敬称略）

時間	分	内容	
13:00	30	開会挨拶	事務連絡、主催者挨拶、来賓挨拶
13:30	30	実践発表 ①	「牛（酪農）とのふれあいを通して、絆を育む教育実践」 帯広市立森の里小学校 高橋 淳一

14:00	30	実践発表 ②	「小泉牧場物語」 筑波大学附属小学校 由井 菌 健
14:30	10	休 憩	
14:40	70	ワークショップ	酪農教育ファームウィズコロナ～活動の価値と役割を再確認し、今、自分たちに何ができるか考えよう～ 進行：練馬区立大泉南小学校 横山弘美
15:50	10	事務連絡	事務連絡、アンケート入力
16:00	閉 会		



<開催結果>

○参加者：56名（ファシリテーター19名、研究会会員17名、指定団体6名、報道6名、来賓・事務局8名）

○アンケート結果

【5段階評価の平均】

質問項目	評価
今回の研修会に満足したか	4.8
実践発表は参考になったか	4.8
ワークショップは参考になったか	4.7
またこのようなWEB形式の研修会に参加したいか	4.7

【自由記述】（抜粋）

○熱意のある先生と熱意のある酪農家とその人たちを結ぶきっかけがあつて、

子どもたちが素晴らしい経験を得られると思った。うちの牧場では何ができるだろうか？（酪農家）

- 今日のグループワークで改めて考える事ができた事に感謝します（酪農家）
- 自宅で研修に参加できるのがすばらしい！（酪農家）
- 少数の方たちとの議論は有意義だった。もう少し時間が長いと良かった。（教育関係者）
- コロナ禍だからこそ、できることがあると改めて思った。（教育関係者）

②牧場体験研修会

- 研修会は中止
- 来年度以降の教員対象研修会の内容検討に資するとともに、新たな実践を生み出すためのノウハウ等を把握し普及するため、認証牧場に対して、学校と連携した活動の実施状況や内容等に関するアンケート調査を実施する。（感動通信 vol. 62 へアンケート用紙を同封する）

4. 安全・衛生・防疫対策

（1）安全・衛生・防疫対策の重要性の再周知と、最新の情報の伝達の伝達

- 認証研修会、スキルアップ研修会における講演の実施
- HP・フェイスブックを通じた情報及び資料（手洗い大作戦、各種マニュアル等）の提供
- 機関誌「感動通信」を通じた情報の提供

（2）WEB 研修会の実施

■アニマルウェルフェア研修会

<開催概要>

- 目的：近年、家畜の感受性を理解し、その生態や習性による行動を妨げられることがないように、アニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理が求められるようになってきていることを踏まえ、酪農教育ファームファシリテーター、地域交流牧場全国連絡会会員及び生産者団体の役職員等を対象とした「アニマルウェルフェアの考え方に対応した乳用牛の飼養管理指針」（公益社団法人畜産技術協会作成）を周知する研修会を開催し、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の普及・定着に資する。
- 令和2年11月30日（月）13：30～15：00
- プログラム（敬称略）

時間	分	内容	
13：30	10	開 会	事務連絡
13：40	10	挨 拶	主催者挨拶
13：50	50	講 演	「アニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理等」

			農林水産省生産局畜産部畜産振興課畜産技術室 課長補佐 白尾 紘司
14:40	15	質疑応答	※講演中、参加者には質問をチャットに書き込んでいただき、その中からいくつかピックアップして回答。
14:55	05	事務連絡	事務連絡、アンケート
15:00	閉会		



<開催結果>

○参加者：40名（ファシリテーター28名、指定団体・指定団体会員12名）

○アンケート結果

【5段階評価の平均】

質問項目	評価
今回の研修会に満足したか	4.5
講演は参考になったか	4.6
またこのようなWEB形式の研修会に参加したいか	4.8

【自由記述】（抜粋）

- 全体を通して牛のことを考え直す機会になりとても勉強になった（酪農家）
- 初めてのWeb形式の研修だったが、接続手順書の事前送信等、事前対応や当日対応がとても良く安心して研修を受講することができた。（酪農家）
- 地方にいても、子どもがいても参加できて非常に有難い。ネットさえあれば全ての人が平等に学ぶ機会を与えてもらえる時代になったのだなと嬉しくなった。（団体職員）

- 国内農場を視察した際の感想や実態などを具体的に話してもらえると、参加した酪農家ももっと引き寄せてとらえられるような気がした（団体職員）
- 参加出来なかった場合のため、内容が動画等で後日閲覧できると有難い。（団体職員）

(3) 新型コロナウイルス感染症への対応

- 「新型コロナウイルスを想定した消費者交流活動に係る感染予防ガイドライン」を作成し、認証牧場・ファシリテーターに配布。

5. 広報

(1) 機関誌「感動通信」の発行

- 7月1日は休止

■vol.60

- 令和2年10月1日（木）発行
- 國分委員長と清水副委員長の対談、学校現場の現状（文部科学省・渋谷一典教科調査官インタビュー）等。



■vol.61

- 令和3年1月1日（金）発行。
- 実践研究集会の内容紹介等。



■vol.62

○令和3年3月31日（水）発行。

○墨田区立第三寺島小学校（福井みどり校長）と吉田牧場（埼玉県）の連携によるオンライン授業の取り組み、西山牧場（兵庫県）と兵庫県酪におけるオンライン授業の取り組み等。

（2）ホームページ及びfacebook ページによる情報発信

■ホームページ (<https://www.dairy.co.jp/edf/>)

- 酪農教育ファームの概要、事例、調査報告、各種データ等の掲載
- 各種会議や研修会等の開催案内・プレスリリース、開催結果の掲載
- 活動支援ツール及び情報誌の紹介、関係者等からの申込受付

■facebook (<https://www.facebook.com/rakunoukyouikufarm/>)

- 酪農教育ファームホームページと連動した内容
- その他酪農教育ファームに関する各種情報

6. 制作物

（1）既存の教材等の増刷・配布

■「酪農教育ファーム紹介チラシ」の更新

■以下ツールの増刷

- DVD「20周年記念 食やしごと、いのちの学び」
- DVD「みんなの酪農体験～乳牛のいのちとふれあう～」
- DVD「牛がうまれるとき～かけがえのない命の誕生～」
- DVD「牛乳のふるさと～宮崎県・本部農場の一日」
- 紙芝居「牛乳が消えた」
- 絵本「うしのティアラ」
- 低学年向け小冊子「だいはっけん」

（2）各種研修会用ツール及び新規認証者へのツールの制作

■新規認証書・認証カードの制作・配布

■「認証規程」「交流活動における感染症防疫マニュアル」「酪農体験学習マニュアル」の増刷

7. 他団体との連携

（1）地域交流牧場全国連絡会

- ①各種会議における酪農教育ファーム事業の説明
- ②各種会議・研修会の相互協力

(2) 日本酪農教育ファーム研究会

- ①実践研究集会の共催 (10/11)
- ②定期総会への出席 (7/19)
- ③例会への出席 (9/6・2/7)
- ④役員会への出席 (5/24・6/28・8/2)

(3) 全国農業協同組合連合会、全国酪農業協同組合連合会、(公社) 中央畜産会、(一社) Jミルク・乳の学術連合

必要に応じ情報交換等を実施。なお、例年、各種イベント等への参加・協力を相互に行っているが、今年度は新型コロナにより中止。

(4) (公社) 中央畜産会

- 畜産映像情報「がんばる！畜産4」での酪農教育ファームの取り上げ
- 「酪農教育ファームで命の大切さを教える 埼玉県小鹿野町吉田牧場」
(認証牧場への取材＋本会議担当者による酪農教育ファーム活動の概要等説明)
- ※インターネットへの掲載及びグリーンチャンネルでの放映

(5) 農林水産省

- ①「食育推進評価専門委員会」への委員派遣 (清水牧場・清水ほづみ氏)
- ②「食育推進プラットフォーム」への協力
(食育の推進に向けて国、地方公共団体、教育関係者、農林漁業者、企業、団体、ボランティア、個人等が参画する枠組み。令和3年度立ち上げ予定)

以上